

聞思

今号の法語

貼は瀨に住む 小鳥は森に
わたしや六字の うちにすむ
妙好人 六連鳥おなる

発行所 光山寺
〒758-0063 萩市大字山田4553
TEL (0838) 22-1370
http://kousanji.net

第25代 専如門主 法統継承

去る六月六日、第二十四代勝如門主から第二十五代専如門主への法統継承式が「阿弥陀堂」と「御影堂」にて執行された。これにより、即如門主は前門となられました。

専如門主は、一九七七年(昭和五二年)のお生まれで、法政大学法学部を卒業後、龍谷大学大学院修士課程終了。二〇〇八年平成二〇年築地本願寺副住職に就任され、首都圏をはじめ各地を訪ね、宗門への理解を深められてきました。以下に、即如門主退任の御消息と専如門主就任の御消息を掲載します。

退任に際しての消息「本日、平成二十六年六月五日をもって、私は本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主を退任し、後を本願寺副法・新門に託すことにいたしました。／昭和五十二年四月一日、法統を継承して以来、三十七年二月になりまます。至らぬことが多々あった中、今日まで務めることができました。／これは、仏祖のご加護は申すまでもなく、宗門内外の方々のご支援、ご理解とご協力のお蔭であります。皆様に、心より感謝申し上げます。／この間、本願寺では、阿弥陀堂の修復、顕如上人四百回忌、蓮如上人五百回忌、御影堂の修復、宗祖聖人七百五十回大遠忌等のご縁を皆様とともにすることができました。さらに、北境内地を取得できたお蔭で、活動をより広く展開できるようになりました。また、宗門では基幹運動の推進とともに、さまざまな活動や事業がありました。世界各地にも、お念仏の輪が広がっています。それらを、巡教などによって身近に知り、御同朋の思いを確かめることができましたこと、まことに有り難く思います。／この三十七年間は勝如前門主の戦争を挟んだ激変の五十年に比べれば、やや穏やかとも言える時代でしたが、国内では大小の天災・人災が相次ぎ、経済価値が優先された結果、心の問題も深刻化しました。世界では、武力紛争、経済格差、気候変動、核物質の拡散など、深刻なあるいは人類の生存に関わる課題が露わになりました。その中で、心残りは、浄土真宗に生きる私たちが十分に力を発揮できたとは言えないことです。／私たちの宗門は、門信徒一人ひとりに、み教えが受け継がれるという素晴らしい伝統をもっています。これからも、社会の変動の中にあつて、浄土真宗のみ教えや伝統にある多様な可能性を見つけ出し、各人、各世代、特に若い世代の感性と実行力を尊重して、一人でも多くの方を朋とし、御同朋の社会



をめざして歩むことができるよう願っております。／後を継ぎます新門主は、築地本願寺で五年九か月の間、副住職を務めて経験を積み見聞を広めています。今後は、法統を護るとともに、宗門全体を思い、広く宗教界を視野に入れて、務めることとなります。皆様の一年のご支援をお願いいたします。／なお、私は、七十歳までと一年余りとなりました。先のことは予測できませんが、阿弥陀如来の揺るぎない本願力の中に、宗祖聖人のみ教えを仰ぎ、浄土真宗の僧侶としての務めを、できる限り果たしたいと思っております。平成二十六年(二〇一四年)六月五日 龍谷門主 釋即如

法統継承に際しての消息

私は先代門主の意に従い、法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主に就任いたしました。／ここに先代門主の長きにわたるご教導に深く感謝しますとともに、法統を継承した責任の重さを思い、能う限りの努力をいたす決意であります。／釈尊の説き明かされた阿弥陀如来のご本願の救いは、七高僧の教えを承けた宗祖親鸞聖人によって、浄土真宗というご法義として明らかにされ、その後、歴代の宗主方を中心として、多くの方々を支えられ、現代まで伝えられてきました。その流れを受け継いで今ここに法統を継承し、未来に向けてご法義が伝えられていきますよう、力を尽くしたいと思います。／宗門の過去をふりかえりますと、あるいは時代の常識に疑問を抱かなくなったことによる対応、あるいは宗門を存続させるための苦渋の選択としての対応など、ご法義に順っていないと思える対応もなされてきました。このような過去に学び、時代の常識を無批判に受け入れることがないよう、また苦渋の選択が必要になる社会が再び到来しないよう、注意深く見極めていく必要があります。／宗門の現況を考えます時、各寺院にご縁のある方々への伝道はもちろんのこと、寺院にご縁のない方々に対して、いかにしたらきかけていくのかを考へることも重要です。本願念仏のご法義は、時代や社会が変化しても変わることはありませんが、ご法義の伝え方は、その変化に応じて変わっていくか、あるいは、現代という時代において、どのようなか、とりわけ、東日本大震災をはじめとする多くの被災地の復興をどのように支援していくのかなど、問題は山積しています。／「自信教人信」のお言葉をいただき、現代の苦悩をも背負い、御同朋の社会をめざして皆様と歩んでまいりたいと思っております。平成二十六年(二〇一四年)六月六日 龍谷門主 釋専如



光山寺行事案内

関連行事には カレンダーに◎印を！
平成二十六年度九月～十二月までの光山寺行事予定一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

★光山寺法要関連

- 九月二九・三〇日(月・火曜) 秋季永代経法要(講師、香川孝志師)
- 十一月二八・二九・三〇日(金・土・日曜) 報恩講法要(講師、福田康正師)

★山口教区・萩組関連

- 十月二五日(土曜) 全国仏法大会(福岡国際会議場)
- 十一月八・九日(土・日曜) 中四ブロック婦人全大会(山口別院)
- 十一月十三日(木曜) 連続研修会(泉福寺)
- 十一月十六日(日曜) 萩組「葬送儀礼公開講座」(光楽寺)
- 十一月二五日(火曜) 婦敬式執行(山口別院)
- 十一月二六・二八日(水・金曜) 山口別院報恩講法要(山口別院)
- 十二月 九日(火曜) 教区副法代会(山口別院)
- 十二月二六日(金曜) 萩組教化組織懇談会(萩本陣)

★子供会(土曜学校) 関連

- 十月十八日(土曜) 十一月十五日(土曜) 十二月二〇日(土曜) 子供報恩講 十一月十一日(日曜) ※萩組子供報恩講は十二月予定

★仏教青年会関連

- 十二月三一日(水曜) 除夜会

★仏教壮年会関連

- 十月一九日(日曜) 午後二時 光山寺ソノボル大会(白水小)
- 十一月二九日(土曜) 午後七時 報恩講夜座(本堂)
- 十二月二〇日(土曜) 午後六時 光山寺仏法研修会・忘年会

★仏教婦人会関連

- 十一月二六日(水曜) 午前八時半 光山寺報恩講の清掃・荘厳

★親鸞聖人讃仰会

- 十月二〇日(月曜) ※本年はこれで終了

★礼讃の夕べ(旧、正信偈唱和会)

- 十月十八日(土曜) ※予定変更済注意、本年はこれで終了

★雅楽練習会

- 十月 五日(日曜)
- 十月十六日(木) 午後八時

★仏教讃歌コーラス練習会

- 毎月第三木曜日(本堂)

※雅楽・コーラスは新規参加者募集中。気軽に問合せください
山口別院定例法座・毎月五日午後一時半(一月は十時半) 萩こころの電話(三分間法話) Ⅱ25577710 西本願寺の時間(KR Yラジオ) 毎週日曜日午前六時から十分

報告・お知らせ

■婦人会バザーの報告■

去る六月二八・二九日に行われた婦人会法座時のバザーの収益についてお知らせします。バザー収益金は十四万八千五百七十七円でした。この中から本堂に設置してあります募金箱とあわせて十万円を広島市の豪雨土砂災害支援金として、広島市の安芸教区に直送送金させていただきました。本堂に有り難うございました。

■WFFJ(世界自然保護基金日本委員会)の募金箱報告■

焼香卓のWFFJ募金箱に集まった募金五千一百四十二円を七月二十九日送金いたしました。募金大変に有り難うございました。WFFJは、東日本大震災前より日本のエネルギーの未来を変えるために、環境保全の視点を政策に、現実的・具体的な道を描く、政府案に対する代替案を出す、温室ガスの削減目標を定める、既成概念を変えていく、エネルギーへの関心を高める、などの環境活動を積極的に行っています。

■今年も別院にて帰敬式■

山口別院の報恩講に合わせ今年も帰敬式が執り行われます。帰敬式は、阿弥陀さま・宗祖親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、今後力強く生きていくことを誓う生涯に一度の大切な儀式で、「おかみそり」ともいいます。式は原則としてご本山でご門主によって執り行われ、三帰依文を唱えて、おかみそりを受け、法名をいただくのですが、本願寺以外でも帰敬式執行が可能となりました。受式者全員、椅子で帰敬式を受式できるので、この縁には是非受式ください。日時は十一月二十五日(火曜日)午後一時より受付。午後二時執行。冥加金は成人一万円・未成年五千円を当日持参ください。申込み方法は、お寺まで氏名・生年月日・住所を必ず十月十五日までにお知らせください。また、この度の帰敬式では法名の内願(本人がご希望の法名を付ける事)が、残念ながら期日の関係でできません。尚、ご本山での帰敬式は従来どおりに毎日2回行われています。(一月一日・一月十六日の晨朝後、一月八日・十一月二十日終日を除く)

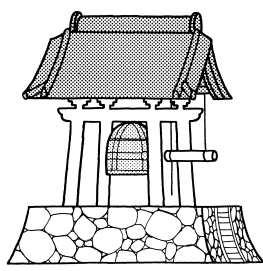


■報恩講 夜の座■

光山寺の報恩講日程は毎年十一月の二十八・二十九・三十日の三日間の固定で、朝・昼の合計六座の法座がもたれています。日程や仕事の関係で聴聞ができにくい方々のために、ご講師が宿泊される場合に限り、二十九日は夜の座が開かれます。今年の報恩講ではこの夜の座が二十九日のみ午後七時より開かれる予定です。また、この夜の座には雅楽演奏も行われる予定です。尚、夜の座が開かれる関係から三十日は午前中にて満座終了となります。仏教壮年会の方は、この夜座が研修会をかねているので、万障繰り合わせの上ご参加ください。

■除夜会にて富くじ抽選会■

光山寺では大晦日の午後十一時四十分より毎年除夜の鐘をついています。この除夜会の後にお正月の最初のお勤めである修正会(元旦会)が本堂にて勤修されます。多くのご門徒の皆様と新しい年の最初のご縁にあう法会です。昨年より一人でも多くの方にこの法会に参加して頂きたいとの思いから修正会終了の午前一時より、本堂にて新年お楽しみ富くじ抽選会を開催しています。ただし、富くじ番号札配布は大晦日除夜会の除夜の鐘をつきに来た方、一人に一枚のみのお渡しとなります。(無料、鐘がつけるのは百八番まで)豪華賞品を用意していますが、抽選時不在の方には商品獲得の権利がありませんので、修正会には必ずご参加ください。



■冬の児童作品募集■

本願寺では毎年一月九日から十六日までの間、親鸞さまのお徳をたたえ、例年、この法要期間中に「全国児童生徒作品展」を開催いたします。私たち一人ひとりが仏さまの教えの中で育てられ、生かされている喜びを、作品に表してみましよう。たくさんのお友達をさそって、みなさんの得意な部門に出品してください。

【作文・詩】

「他の人の苦しみや悩みを自分のこととして考えられるような生き方」について書いてください。
 ・幼児規格無し・小学生 B4縦書400字詰原稿用紙3枚以内
 ・中学生 B4縦書400字詰原稿用紙4枚以内・本人直筆に限る
 ※原稿用紙の1行目に「題」、2行目に「単位名(団体名)および「学年」、3行目に「氏名・ふりがな」を必ず明記してください。

【絵画】

課題はありませんので自由に描いてください。(A4・A3・A2・版画も可)。四切(38cm×54cm)以内(全学年共通)。名札を作品下部中央につけてください。(HPよりダウンロード可能)

【書】

幼児 自由に書いてください(一字でも可)。
 小学1年生 山
 小学2年生 じ
 小学3年生 よろこび
 小学4年生 受けつぐ
 小学5年生 伝える力
 小学6年生 新しい歩み
 中学 生 眞実信心天

※学年氏名は、自筆で左側に書くこと。ただし、低学年の場合は姓または名前だけでもよい。園児 小学生 半紙(タテ33cm×ヨリ24cm)に限る書体は楷書。中学生、画仙紙半切四分の一の大きさ(タテ68cm×ヨリ17.5cm)。書体は楷書もしくは行書。名札を作品下部中央につけてください。(HPよりダウンロード可能)

表彰

(1)小・中学生の各部門入賞作品を表彰いたします。
 「特選」各部門各学年一名 「入選」各学年三名以内
 「佳作」 各学年若干名
 (2)幼児の各部門入賞作品を表彰いたします。
 「はと賞」 各部門若干名
 (3)応募者全員に参加賞を贈ります。

出品方法 十月二十五日までに光山寺迄お届けください。作品は返却いたしません。※山口別院作品展については別紙案内をご覧ください。

■仏教豆辞典■

『仏教用語辞典一〇〇』(本願寺出版社より)

【法螺(ほら)】

「ホラを吹く」といえば、大げさなことを言う、うそをつくという意味に使われていますが、もとは、お釈迦さまの説法のことを指したのですから、不思議です。お釈迦さまの説法は、いろいろな表現で喩えられています。獅子吼は有名ですが、「大法螺を吹く」も、その一つなのです。インドでは、戦場でホラ貝を吹き出陣の合図をしましたが、その音が遠くまで響き、軍勢を勇気づけたのを、仏の説法の喩えとしたようです。それが「お釈迦さまのような偉そうなことを言う」という意味を経て、今のようになったとのこと。

【油断】

「油断大敵」という言葉があります。ちょっとした不注意でも、それがもとで大失敗をまねくことがあるので、気をゆるしたり、不注意は大敵である、という意味でしょう。『涅槃経』に、むかし、ある王が、一人の部下に油の一杯入った壺を持って歩かせ、「もし一滴でもこぼしたなら、汝の命を断つ」と言い渡したことが書かれています。不注意は最大の敵だといいたしめでしょう。このことから、注意を怠ることを「油断」といったということです。油で命を断つということでしょう。油断は怪我の基といえます。皆さん、くれぐれも油断なきように。

【楊枝(ようじ)】

楊枝は楊子とも書き、歯を掃除する用具で、つまようじや歯ブラシのことをいいます。インドの修業僧が、持っている道具を、六物とか十八物とか呼んでいます。楊子は、その十八物の一つとなっています。柔らかい木の小枝を取り、その枝端をかみ、その汁で歯を磨き口を洗ったので、歯木ともいいました。この習慣は中国へ伝えられたといいますが、中国では楊柳で作ったので、楊枝の語が生まれたといわれています。日本へは仏教伝来と共に伝えられ普及しましたが、洋風歯ブラシ全盛の現在、つまようじだけが面影を残しているようです。